

◆第三次高知市環境基本計画の指標について

1 現状と課題

第三次高知市環境基本計画「基本目標5 環境の保全・創造に取り組む人づくり・地域づくり」の代表的な指標である、「環境に配慮した行動を自ら実施している人の割合」の直近値が左図のとおり未把握となっているため、指標の把握方法について検討し、直近値の把握が必要である。

第三次高知市環境基本計画（p.93）代表的な指標、個別指標一覧抜粋

	主な関連計画などの指標	指標の説明	指標の方向性	基準値	目標値	直近値	関連計画(計画年度)
◎	環境に配慮した行動を自ら実施している人の割合	環境に配慮した行動を自ら実施している人の割合		-	直近値からの向上(2032年度)	未把握	

2 事務局(案)

- 下記(1) ・基本目標5の代表的な指標は、目標1～4の達成状況から得られる重点指標と位置付けていることから、高知市民意識調査において、他市の調査を参考に、「普段の生活から環境に配慮した行動をどの程度取り組んでいますか。」といった問いを追加し、指標としてはどうか。
- 下記(2) ・上記の問いで「環境を配慮した行動に取り組んでいる」と回答した方に対して、回答内容を個別に把握するために、どのような行動をしているのか選択形式の問いを作成してはどうか。
- ・(1)を補完する指標とし、施策の実施状況を分析してはどうか。

3 指標の把握方法

- (1) 高知市民意識調査を用いる。 { ・18歳以上の市民3,000人を無作為抽出
・R5年度有効回収率：49.6%

高知市民意識調査 ※【参考資料2】参照

本市が進めているさまざまな分野に関する、市民のみなさんの意向やニーズを把握することで、今後の市政運営の参考とするとともに、長期的な市政運営の基本方針を示す計画である「高知市総合計画」を着実に進めていくために、実施している。

(例) 問1 普段の生活において、環境に配慮した行動をどの程度取り組んでいますか。

1：常に取り組んでいる 2：ある程度取り組んでいる
3：あまり取り組んでいない 4：まったく取り組んでいない

問2 問1で「1：常に取り組んでいる」、「2：ある程度取り組んでいる」と回答した方のみにおたずねします。どのような行動をしていますか。(複数可)

※第2次高知市地球温暖化対策地域推進実行計画(区域施策編)の進行管理指標を参照

1：LEDや太陽光発電設備等の省エネ設備の導入に努めている 地球にやさしいエネルギーをつくる
2：適切な冷暖房温度の設定や節電などの省エネに努めている エネルギーを賢くつかう
3：自動車の使用を控え、公共交通機関や自転車を利用している 温室効果ガスの排出の少ないまちをつくる
4：適切なおごみの分別に取り組んでいる 循環型社会をつくる

問1 常に取り組んでいる(〇〇%) + ある程度取り組んでいる(〇〇%)

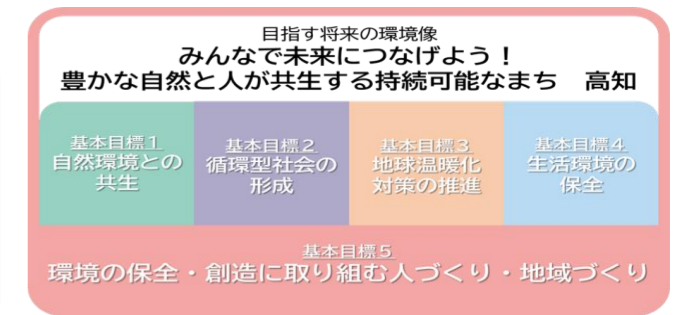
	主な関連計画などの指標	指標の説明	指標の方向性	基準値	目標値	直近値	関連計画(計画年度)
◎	環境に配慮した行動を自ら実施している人の割合	環境に配慮した行動を自ら実施している人の割合		-	直近値からの向上(2032年度)	〇〇%	

メリット	デメリット
・環境政策の基軸となる市民1人ひとりの行動変容が数値化され、指標を捉えやすい。	・「環境に配慮した行動をしていますか。」との問いにした場合、肯定的な回答が多くなると考えられる。

- (2) 基本目標1～4の指標の状況から総合的に分析する。

基本目標5 環境の保全・創造に取り組む人づくり・地域づくり

第三次高知市環境基本計画において、基本目標5は、基本目標1～4を支える基盤として位置付けていることから、目標1～4の状況から目標5の代表的な指標を総合的に分析する。



- (例) 各指標が目標を達成したか未達成かの2択で判断する。

基本目標	代表的な指標	指標の方向性	前回値からの変化	時点目標達成
1 自然環境との共生	搬出間伐の材積			○
	中山間地域等直接支払交付金集落協定対象農地面積			×
2 循環型社会の形成	1人1日当たりごみ総排出量			○
	資源回収率			○
3 地球温暖化対策の推進	市域の温室効果ガス排出量			○
4 生活環境の保全	水質環境基準のうち健康項目の達成率			○
	有害大気汚染物質環境基準の達成率			○

	主な関連計画などの指標	指標の説明	指標の方向性	基準値	目標値	直近値	関連計画(計画年度)
◎	環境に配慮した行動を自ら実施している人の増加につながる行政施策の達成度	基本目標1～4における代表的な指標の達成度		-	直近値からの向上(2032年度)	6/7達成	

基本目標1～4の代表的な指標の時点達成
↓
環境に配慮した行動を自ら実施している人の活動量や関わっている人が増加傾向にあると捉えることができる。

メリット	デメリット
・指標を客観的に判断できるため、市民意識調査よりも人の行動をより正確に捉えることができる。	・各指標の達成状況を○×で判断する場合、おおまかな結果になる。 ・各指標の達成状況を前回値からの変化の程度で判断する場合、評価基準の設定が難しい。

